Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Low resting energy expenditure in postmenopausal Japanese women with type 2 diabetes mellitus

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井出, 理沙 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032490

主 論 文 の 要 旨

Low resting energy expenditure in postmenopausal Japanese women with type 2 diabetes mellitus（閉経後の日本人 2 型糖尿病女性における安静時エネルギー消費量：臨床的特徴をふまえた予測値との比較検討）

東京女子医科大学糖尿病・代謝内科学教室
（指導：馬場園哲也教授）
井出　理沙

Diabetol Int Online, https://doi.org/10.1007/s13340-019-00391-z
（平成 31 年 2 月 28 日発行）に掲載

【要　旨】

安静時エネルギー消費量（REE）は，2 型糖尿病の栄養管理において重要である．間接熱量計による REE は正確であるが，測定には技術と時間を要するため Harris-Benedict 式， Ganpule 式，および京大式の予測式が汎用されている．本研究では 2 型糖尿病における予測値と実測値の差に関連する因子について検討した．重篤な合併症を有さない 2 型糖尿病患者 49 名（男性 32 名，女性 17 名）を対象に，REE を間接熱量計で実測,また上記３式による予測値を算出した.対象者の平均年齢は 56.3±11.0 歳，body mass index(BMI)は 25.2±3.6 kg/ m^2，HbA1c は 9.6±1.6％で，実測値は 1,099 ±212 kcal/日であった．重回帰分析では体重のみが有意な関連を認めた．実測値の三分位で予測値と比較したところ，中間群，高値群では京大式が最も実測値と近似したが，低値群では Ganpule 式が最も近似した．京大式では実測値が低いほど両者の差が開大する傾向が見られた.低値群の 16 名中 12 名 (75%) は 50 歳以上の女性であった．50 歳以上の女性の実測値は 904±121 kcal で，同じ年齢層の男性より有意に低く，予測値は 26％過大評価となった．以上の結果から閉経後の日本人 2 型糖尿病患者に REE 予測値を用いる際は，実測値を過大評価していることを考慮すべきである．